

別紙様式（府中市立上下北）小学校・学園

令和3年度全国学力・学習状況調査の 結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査日時

令和3年5月27日（木）

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数
全 国	64.7	70.2
広島県	66	70
府中市	70	74
（ 上下北小学校 ）	68	75

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 ・ 資料を用いた目的を理解する。 ・ 目的や意図に応じ、資料を使って話す。 ・ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。 ・ 思考にかかわる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。 ・ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。 ・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。 ・ 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。 ・ 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う。 ・ 文の中における主語と述語との関係を捉える。 ・ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
算数	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。 ・ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 ・ 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。 ・ 条件に合う時刻を求めることができる。 ・ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。 ・ 三角形の面積の求め方について理解している。 ・ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。 ・ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。 ・ 棒グラフから、数量を読み取ることができる。 ・ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 ・ データを二次元の表に分類整理することができる。 ・ 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。 ・ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。 ・ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。 ・ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。 ・ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準値を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題

- ◇文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。(読むこと) 100%
- ◇話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。(言葉の特徴や使い方) 80%
- ◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。(読むこと) 26.7%
- ◆目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。(読むこと) 20%

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点

【国語】改善策

- 文章を書く学習では、条件を提示し、条件を意識して、資料から情報を取り出したり、字数制限内で文を書いたりする経験を積ませる。
- 中心となる語や中心文を見付ける力を高めるために、低学年の段階から、キーワードを意識した読みを行う。
- 文に慣れさせるために、音読を毎日毎時間取り入れる。

【算数】特徴と課題

- ◇棒グラフから、数量を読み取ることができる。(データの活用) 100%
- ◇速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。(変化と関係) 93.3%
- ◆データを二次元の表に分類整理する。(データの活用) 53.3%
- ◆帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。(データの活用) 46.7%

【算数】改善策

- 必要な数字や言葉、式を使って説明する機会を設定し、条件を満たしながら、順序に沿って説明する力を育てる。
- 低学年段階から学習内容の確実な定着を図るため、毎時間演習問題を確実に取組んだり、ドリルタイムなどで復習に取組んだりする。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
○今住んでいる地域の行事に参加しているか。93.3% (+35.8%) ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか。80% (+28.1%) ○家で自分で計画を立てて勉強しているか。100% (+26%) ○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。93.3% (+22.4%)
肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目
○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるか。60% (-10.5%) ○新聞を読んでいるか。6.7% (-8.1%)

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるために、授業や朝の会でのスピーチ活動などを活用し、他者の前で自分の考えを表現する経験を増やし、自信を持たせる。 ○新聞を読む習慣や読書習慣を付けさせるため、家庭での読書を通信で呼び掛けたり、家庭学習で新聞や本を読むことを課題として出したりして、新聞や本を読む意欲を高める。
--